

台湾について

～台湾の歴史と日本との関わり～

川上 孝

序

1. 台湾の歴史のあけぼの
2. 日本統治下の台湾
3. 国民党の圧政
4. 日台関係
5. 台湾を訪れる外国人観光客
6. タバコのポイ捨てに関する罰金の強化
7. 台湾で訪れたい観光名所

結

序

台湾の位置は日本に近く、日本人観光客も多いということで、多くの日本人が関心をもっている。ならば、台湾を観光するうえで、台湾の歴史や法律の知識を得ることが望ましい。歴史や法律の知識を得ることで、安全にも繋がり、観光を楽しむことができるだろう。台湾は親日的な人が多く、歴史的にも日本と深い関わりがある。台湾を訪れる外国人観光客は多いが、マナーを守らない観光客も存在する。台湾は、タバコのポイ捨てに関して、罰金が強化された。外国で罰金を払いたい人はいないだろう。そこで、台湾の歴史や法律について調査し、分析する。

1. 台湾の歴史のあけぼの

台湾にヒトが住み始めたのは、少なくとも今から5万年前と見られている。つまり、日本の旧石器時代の初期には、台湾におい

でも人類の生活が始まっていた。台湾の東海岸、太平洋岸南部の都市、台東の東に八仙洞と呼ばれる観光名所がある。切り立った崖の岩場に数々の洞窟があり、古くから仏像などが彫られ、宗教的な聖地とされてきた。そこに長浜文化と呼ばれる文化を持って生活していた古代人がいた。5 万年前から 1 万 5 千年前にかけて人々の暮らしの痕跡があり、人々は採集と漁労の生活をしていたことがわかっている。今のところ、これが台湾最古の人類の遺跡である¹。

この台湾の原住民は、現在の台湾の総人口約 2200 万人の 1.9% を占める少数民族である。ただ、総人口の約 80% は、漢民族と原住民の混血と言われている。

2. 日本統治下の台湾

戦国時代から江戸時代初期にかけて、台湾は「高山国」と呼ばれていた。豊臣秀吉は「高山国」宛に朝貢を促す文書を作成したが、朝貢の目的は果たせなかった。1871 年に宮古島島民遭難事件が起こり、首里王府に年貢を納めて帰途についた宮古、八重山の船 4 隻のうち宮古船の 1 隻が台湾近海で遭難し、山中をさまよった生存者のうち 54 名が台湾原住民によって殺害された事件である。日本政府は清朝に嚴重に抗議したが、原住民は「化外の民」という返事があり、そのために 1874 年には日本による台湾出兵が行われた²。

日本が台湾を統治する以前にも、日本と台湾は関わりがある。

1894 年に日清戦争が起きた。最終的に日本の勝利で終結した。1895 年 4 月 17 日に下関条約が調印された。同条約によって、清

¹ 浅野和生『台湾の歴史と日台関係 古代から馬英九政権まで』（早稲田出版、2010 年）11 頁。

² 「台湾の旅 国立台湾博物館」『日本人の源流を求めて』

〈http://inoues.net/taiwan/taiwan_museum.html〉 2015 年 12 月 10 日。

国は日本に対して台湾および澎湖諸島を永久に割譲することとし、合わせて遼東半島も日本の統治下に入ることとなった。しかしながら、ロシア、ドイツ、フランスの三国干渉のため、遼東半島については清国に還付されることとなった。いずれにしても、こうして 1895 年に、日本による台湾統治が決定した。条約調印が 4 月 17 日、これに対する三国干渉が 4 月 23 日と素早い対応であったのだが、これは遼東半島に対してのみなされたのであって、列強三国も、また清国も台湾割譲については触れていない³。

1895 年から台湾は日本の統治下に入り、当時の台湾は「化外の地」と言われ、伝染病のはびこる不毛の島だった。日本人が治水や道路などの各種インフラを整え、病院や学校などを多数建設した。台湾の治安は「夜不閉戸」と言われるほど良く、台湾人と日本人は一体となって幸せな時代を過ごした。「夜不閉戸」とは、夜でも鍵をかけなくても良いということである⁴。

20 世紀前半までには、台湾ではすでに各レベルの政府、司法機関、戸籍制度、農会の機構、金融財政体系、大規模な農田水利、道路および鉄道交通、そして電力とその分配システムなどのインフラ建設がすすめられ、さらには全島の初等教育が整えられた。台湾では識字率が向上したばかりではなく、西欧文明、基本的科学技術や新たな思想観念までを台湾の人々が受け入れることになり、旧来からの農業社会の体質は改変された。半世紀におよぶ日本の統治を通じて、台湾人の文化と価値観ばかりではなく、台湾の社会は近代化によってかなりの変質を遂げたのである。台湾では各部門で中国大陆と比べてほぼ 30 年分の進歩を遂げた結果、この時代に台湾と中国の格差はもっとも大きくなった⁵。

³ 浅野・前掲・45 頁。

⁴ 櫻木雄一郎「台湾の悲劇『二・二八事件』を読み解く」『朱雀式ニュース』
(<http://www.suzaku-s.net/2009/02/taiwan-2-28.html>) 2015 年 7 月 31 日。

⁵ 浅野・前掲・64-65 頁。

しかし、戦争の時代である。日本は、アメリカ、中華民国、イギリス、オランダなどと戦った。太平洋戦争は日本の敗北で幕を閉じた。

3. 国民党の圧政

戦後の台湾は、領土未帰属の状態となり、中華民国（国民党軍）がやってきて支配することになった。台湾人は、軍規肅正な日本軍とのあまりの落差にショックを受けた。

中国人の過酷な支配により、台湾人への略奪や暴行に満ちていた。国民党の軍人や官僚による犯罪は、罰せられることが無かった。戦後やってきた中国人である外省人と元々の台湾人である本省人は対立した。軍人、軍属、軍夫を受け入れる職場も無く、国民党政権の意図的な台湾人排除もあって、失業者は 30 万人以上になった。治安が悪化し、日本時代の「法治国家」から「無法地帯」になった。台湾人は国民党に失望し、不満を持つようになった。台湾人の不満が鬱積していた。昭和 22 年 2 月 28 日に二・二八事件が起きた。

二・二八事件とは、以下のような事件だった。1947 年 2 月 27 日に台北市の商店街で起きた。1 人の女性が闇タバコを販売していた。取締員ら 6 名が、中年の台湾人女性から、商品のタバコの没収だけでなく、所持金までも取り上げた。女性は現金の返却を懇願したが、返却されないばかりか銃で頭部を殴られ、血を流して倒れた。台湾人が集まり、取締員らは民衆に発砲、流れ弾が傍観の台湾人に当たり即死、それが民衆を刺激した。近くの警察局と憲兵隊を包囲して逃げ込んだ取締員らの引渡しを迫ったが拒否された。翌日 28 日、怒った群衆は専売局台北分局に抗議した。午後になると民衆は、抗議デモを行い、政治改革を要求した。長官公署の屋上から憲兵が機関銃を乱射し、数十名の群衆が即死、ますます事態は緊迫し、台北市内の商店は閉店、工場は操業を停止、

学生も授業をボイコット、数万の市民が抗議の列に加わり、騒然となった。警備総司令部は戒厳令を布告した。3月1日に事件は全土に波及、大都市のみならず地方でも騒動が起こり、市民が警察局を襲撃して外省人を殴打し国民党政権への不満をぶちまけた。軍、憲兵、警察は発砲して事態の收拾に努めたが、ますます悪化していった。台北市では「二・二八事件処理委員会」が設置され、陳儀行政長官に承認された。3月2日、「二・二八事件処理委員会」が召集され、台北中山堂で民間人と行政長官側官吏5名での話し合いが持たれた。話し合いにより、3月7日に「二・二八事件処理委員会」は混乱の中、合計42条からなる「処理大綱」を採択した。陳儀行政長官が台湾人の要求を受け入れるかのように見えた。しかし、3月8日に中国から派遣された13000名の応援部隊が高雄と基隆に到着した。上陸の後、手当たり次第に台湾人に向けて発砲した。応援部隊は米国の援助で装備された部隊であり、武器の無い台湾人が抵抗できるものではなかった。陳儀行政長官は応援部隊の到着の報を聞くと、「二・二八事件処理委員会」を不法組織として解散させた。前日までの交渉が嘘のような変わり様である。台湾人の無差別な殺戮は高雄・基隆から始まり、約2週間で全島を鎮圧した。殺戮には機関銃が使用されたが、手のひらに針金を刺し、数人1組に繋いだり、麻袋に詰めて海や河に投げ捨てたり、また、処刑前に市中引き回しを行い、処刑後は数日間放置されたりした。事件に直接関与していない者も多く含まれ、社会的指導者はもとより、危険人物と見られた民意代表、教授、弁護士、医者、作家、教師など、多くの知識人が逮捕された。意図的に日本教育を受けた知識人を根こそぎ粛清するかのようである。このため、台湾の知識人の存在は一時期の間空白となる。二・二八事件の関係者の逮捕は1949年になって緩和されるが、知識人の逮捕はまだ続いた。国民党の発表によると、事件後1ヶ月に殺された台湾人は28000に上る。また、有罪判決を受けて有期・無

期の投獄に処せられた人数は計り知れない。国民党の台湾における二・二八事件に対する過剰な殺戮と鎮圧は国際社会の痛烈な批判を浴びた。この虐殺による死者は3万人近いと言われている。正確な数字は未だに不明である⁶。

二・二八事件以降、国民党政府は台湾全土に戒厳令を敷き、たくさんの台湾人を殺していった。戒厳令は、1987年まで継続しており、台湾人は長らく苦しめられた⁷。

4. 日台関係

日本は台湾を近代化させ、国民党は台湾人を苦しめていたという歴史があり、台湾は親日的な人が多い。外省人は反日的だが、台湾の人口の全体の少数派である。

2008年11月17日から12月12日にかけて、公益財団法人交流協会台北事務所が実施した台湾人についての世論調査によると、台湾人の「最も好きな国」は日本である。しかも、その比率は38%であって、2位のアメリカ(5%)、3位のスイス(3%)を大きく引き離している。さらに、中国に至っては、4位ではあるものの、その比率はわずかに2%にとどまっている。同じ調査で、「旅行をするとしたら行きたい国」についても、44%の日本が第1位で、ヨーロッパを一まとめにしても32%で2位、中国は3位ではあるがわずかに8%、アメリカは4位で6%であった。2009年4月中旬に、台湾の台北駐日経済文化代表処がギャラップ社に依頼した世論調査によると、日本人の56%が台湾に親近感を持ち、65%が台湾を信頼している。さらに、1回以上行ったことがある人が18.5%に

⁶ 「MASAKI'S PLACE」 「台湾の歴史 虐殺と粛清」

〈[http://www.geocities.co.jp/HeartLand-](http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/6613/Taiwan/History/history9.html)

[Gaien/6613/Taiwan/History/history9.html](http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/6613/Taiwan/History/history9.html)〉 2015年9月30日。

⁷ 櫻木雄一郎 「台湾はなぜ親日なのか ～台湾史の基礎知識～」 『朱雀式ニュース』 〈<http://www.suzaku->

[s.net/2008/03/summary_of_taiwan_history.html](http://www.suzaku-s.net/2008/03/summary_of_taiwan_history.html)〉 2015年7月27日。

達している。全日本人の5人に1人近くが、一度は台湾に行ったことがあるのだ。日本と台湾は、国民感情のレベルでは、非常に友好的かつ信頼感をもっている⁸。

台湾は治安が良く、親日家が多いため、台湾に好感を持つ人たちが増えている。旅行をする日本人も多く、旅行をするうえで台湾の法律を守らなければならないと思っている。

5. 台湾を訪れる外国人観光客

世界の大都市を訪れる観光客数ランキングでは、トップ10に入ることができなかったが、観光客の増加率では台湾の台北が世界7位に入った。台湾を訪れる観光客は増加している⁹。

観光客が増えることは良いことだ。しかし、マナーを守らない外国人観光客も存在する。現地の人と観光客がトラブルになることもある。中国人はどこでもタバコを吸うため、ホテルやレストランでは対応に苦慮しているようだ。基本的に台湾では、屋内全ての喫煙を禁止している。ホテルの絨毯やベッドにタバコのニオイが染み付いてしまうと簡単に取れず、次の客が利用する時に弊害が出る。中国人が使った後の部屋に、ニオイに敏感な日本人を入れないように設定しているホテルもある。レストラン内で平気で吸う客も多いため、店側は屋外で吸うことを促すこともある。中国人は促されて怒りを示す観光客もいるが、渋々出て行き、外で吸っている光景もある。中国人のマナーに苦慮する部分も多い¹⁰。

⁸ 浅野・前掲・220頁。

⁹ 城山俊樹「観光客が最も多く訪れる世界の大都市は？台北は観光客成長率で世界7番目—米メディア」『FOCUS - ASIA』

〈<http://www.focus-asia.com/socioeconomy/photonews/419741/>〉2015年9月30日。

¹⁰ 「台湾の観光地に「中国人」続々と～観光経済活性化の裏に苦労も…」『Net IB News』（2013年10月1日）〈<http://www.data->

6. タバコのポイ捨てに関する罰金の強化

台湾は、タバコをポイ捨てする人が多く、火をつけたまま捨てる人もいる。台北市では 2015 年 5 月 1 日から、タバコのポイ捨てをした際の罰金額を引き上げる。1 回目に見つかった場合は 1200 元の罰金で、2 回目は 3600 元、3 回目で 5000 元の罰金と環境教育を受ける必要がある。

台湾元で 5000 元(日本円で約 20000 円)だが、台湾の大卒初任給が 22000 元なのでかなり厳しい罰金とすることができる。

日本人観光客にも適用されるため、注意が必要だ¹¹。

7. 台湾で訪れたい観光名所

台湾の観光名所はとても多い。私は、台湾の首都である台北市を取り上げる。台北 101 は、地上 101 階建て高さ 509 メートルの超高層ビルだ。台北 101 では、89 階からの展望やショッピング、グルメが楽しめる。西門町（シーメンティン）は、日本統治時代の通称が残る地区で、映画館やデパートなどが集中している。多くの若者で賑わう台湾の情報発信地である。総統府は台湾行政の中枢である。日本統治時代の 1912 年に着工した。高さ約 60 メートルの塔を持つルネサンス様式の赤レンガ造りの建物である。台湾には、日本統治時代の建物が数多く残っている¹²。

さらに、グルメに関しては、台北市の鼎泰豊（ディンタイフォ

max.co.jp/2013/10/01/post_16455_sn1.html> 2015 年 9 月 30 日。

¹¹ 「台北市でタバコのポイ捨てに対する罰金が強化、最高 5,000 元（約 2 万円）になる。日本からの観光旅行者にも適用されるため、注意が必要」『鋼鉄的日記』（2015 年 5 月 1 日）

〈<http://www.koutetsuteki.com/entry/20150501/1430505467>> 2015 年 10 月 7 日。

¹² 「台湾観光ガイド 台北」『阪急交通社』〈<http://www.hankyu-travel.com/guide/taiwan/taipei.php>> 2015 年 10 月 12 日。

ン) の小龍包は有名だ。鼎泰豊は、日本国内にも店舗があり、とても有名である。長蛇の列ができるため、1 時間以上待つ場合もあるということだ。鼎泰豊の小龍包は大人気だ¹³。

台湾を観光した際には訪れたいところだ。

結

日本人と台湾人の間の好感度や信頼感は良好である。良好な関係を維持するためにも、観光地で礼儀正しく、1 人 1 人が台湾のマナーや法律を守っていくべきである。

台湾には多くの観光名所があり、グルメも魅力的だ。日本と台湾は深い歴史もある。日本と台湾は、最も身近な国であるため、これからも友好関係を大切にしていけるべきである。

¹³ 「鼎泰豊 <台北 101 店> (ディンタイフォン)」『4travel.jp』
(<http://4travel.jp/overseas/area/asia/taiwan/taipei/restaurant/10408706/tips/11596382/>) 2015 年 10 月 12 日。